

バンクーバーの小学校

松本 典子

カナダの教育制度

カナダの教育制度と一口に言っても、

▲松本さん親子



カナダは国土が広大な関係上、カナダ政府の統轄下ではなく、州政府の管轄になっていて、カナダ全体の統一された制度というものは無い。例えば、オンタリオ州では高等学校は八年生から十三年生までであるが、ブリティッシュ・コロンビア州（以下BC州と略す）では八年生から十二年生までということからしても、その制度が各州により少しずつ異なっていることが分かる。筆者は、BC州のバンクーバーという町に居住しているので、BC州の教育制度について簡単に紹介した後、筆者の息子（小学四年）の経験を具体的に述べてみることにする。

BC州に、小学校だけが、教育制度が敷かれたのは一八七二年で、当時の総生徒数は千人足らず。その後百年の間に五十五万人に増え、大学など高度の教育を受けているのが、今、三十万人いると言われている。

BC州では、大抵の小学校がいわゆる

幼稚園（五才）から始まり、七年生まである。八年生から十二年生までが高等学校で、十二年生を終わると、大学や専門学校へ入る資格を持つ。日本では、義務教育は「中学校まで」となっているが、BC州では、年齢で決めている。即ち、十五才までは学校へ行く義務があるが、十五才を過ぎた子供は、その子供の終了した学年とは無関係に学校をやめることができる。法律の上では、以上のようになっているが、近所の例を見ると、大抵の子供達は高等学校を卒業しているようだ。

教育理念

BC州の教育理念を州文部省の資料（一九七四年）から少し引用してみる。

● BC州の教育は、一人の人間としてのみだけではなく、社会の一員として成長していく機会を全ての子供に与えるために設立された。

● 人間個人として、人は知性における自己の認識と共に、精神的肉体的成長を必要とし、社会の一員として生活する能力と文化的環境への適応性を育まなければならぬ。

ればならない。

● 教育の理念は社会に貢献出来る人間を作ることもある。民主主義の社会では、人々は互いに各々の文化遺産、伝統を分かち合い、法と他人の権利を重んじなくてはならない。

以上のような理念と、具体的な教育方針に基いて、州政府文部省でカリキュラムが組まれる。カリキュラムに従って選ばれた教材のリストも付け加えてあるので、教師は適当なものをその中から選ぶ。しかし、教師は文部省で決めたカリキュラムに忠実に従うことはない。カナダは移民の多い国。従って地域によっては、中国人が密集しているところもあればドイツ人が密集しているところもある。そのような環境の学校では、英語の時間をカリキュラムで定められた時間より多くしたりすることができる。

学校で学ぶ科目は、大体日本と同じだが、フランス語が公立の小学校でも教えられるようになったのは、この国の特色であろう。ご存じのように、フランス語もカナダの国語である関係上、政府の奨励で、カナダ全体の傾向としてフランス語を小学校のカリキュラムに入れるようになった。これに対する父兄の反響は地

	1977年	1978年
幼稚園	30名	25名
小学1年		
小学2年	34名	25名
小学3年		
小学4年		
小学5年	38名	33名
小学6年		
小学7年		

域によって違うだろうが、私の息子の通っている小学校の場合、中産階級の住宅街にあるのだが、父兄からアンケートを取ったところ、九十五パーセントがフランス語教育に賛成だったとのことである。一クラスに生徒は何人ぐらいいるのだろうか。先生と生徒の比も、小人数教育をめざして、変わってきた。一人の教師が受け持つ生徒の最大数に関して、一九七七年度と一九七八年度（今年、新しく改められた）の表（左上）があるので、参考にされたい。

